

氏名	細 谷 晃 弘		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2605 号		
学位授与の日付	平成 5 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	Cellular Immunocompetence in Aortitis Syndrome (大動脈炎症候群における細胞性免疫機能に関する研究)		
論文審査委員	教授 中山 睿一	教授 折田 薫三	教授 佐野 俊二

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

大動脈炎症候群患者17例(活動期群 3 例, 非活動期群14例)に対して, 細胞性免疫機能を検討した。大動脈炎症候群患者は活動期群, 非活動期群ともに健常者に比べて有意に IL-2 産生能が低下していた。また, IL-1 β 産生能は大動脈炎症候群活動期群が, 非活動期群に比べて有意に高値を示した。末梢血中の CD11b⁺CD8⁺ 細胞の比率は大動脈炎症候群患者活動期においては健常者に比べて有意に低下していた。また, CD11b⁺CD8⁺ 細胞と CD57⁺CD16⁻ 細胞の比率は大動脈炎症候群患者においては, 健常者に比べて有意に増加していた。これらのことより大動脈炎症候群においては IL-2 を産生する T 細胞自体に質的異常があり, それによって免疫調節機能に異常が生じ病態の形成に関与していることが推察された。また, 活動期においては免疫調節の抑制機能に異常が生じ, 細胞障害性 T 細胞や IL-1 β などを介して大動脈への炎症が招来される可能性が示唆され, 非活動期においては NK 細胞の増殖によって大動脈の血管障害を持続させる可能性があることが推察された。

なお, 本論文は共著論文であり, 共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は, 大動脈炎症候群における細胞性免疫能について, T 細胞の IL-2 産生能および単球の IL-1 β 産生能を中心に検討したものであるが, 病態の形成にこれら免疫系の異常が関与していることを示唆している。本知見は重要かつ価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。